

シラバス

(健康科学教育研究領域科目)

科目名	健康科学研究演習 I			担当教員：小川 寿美子	
科目名(英語)	Research Seminar in Health Sciences I			メールアドレス：sumiko@meioru.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1148	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	通年	2	研 526	研究室前に掲示

1. 授業の概要
 “健康とは何か”を広く考える学問である公衆衛生学を広く捉える力を養うことを目標とする。初年次である演習 I では、論理的な文章力と文献の読解力を養うための基礎固めをするため、論理的な日本語を書く技術の修得と、人間健康科学、とりわけ公衆衛生学や国際保健に関する数多くの論文、資料を精読し、多方面からの知識を涵養する。

2. 到達目標
 前期の演習 I の構成は、前半 90 分が、毎回ゼミ生が準備する課題である 200 字エッセイをゼミの仲間同士のエディティングを通じて（第 1~7 回は日本語エッセイ、第 9~14 回は英語エッセイ）論理的な国語力を養うことができる。
 後半 90 分が、毎回ゼミ生が準備する課題である興味のある研究論文を 200 字でレビューを提出、その内容に関して仲間同士でクリティカルディスカッションをすることを通じ、専門分野の最新情報を取得すると同時に、批判的な思考を養うことができる。後期の演習 I の構成は、定性データ分析のツールとして NVIVO を駆使し、実際インタビュー調査を分析することを通じて、修士論文に使用する分析ツールを習得することができる。

3. 授業の計画と内容

前期 (Interactive Writing 「IW」+Paper Review 「PR」)	後期 (Qualitative Data Analysis+Paper Review)
第 1 週 演習 I 前期の目標・概要説明	第 1 週 演習 I 後期の目標・概要説明
第 2 週 テキスト①、参考書②の説明	第 2 週 テキスト③の説明、インタビュー起こし
第 3 週 「IW」日本語 1 + 「PR」-1	第 3 週 テキスト④ 1~5 章
第 4 週 「IW」-日本語 2 + 「PR」-2	第 4 週 テキスト④ 6 章
第 5 週 「IW」-日本語 3 + 「PR」-3	第 5 週 テキスト④ 7 章
第 6 週 「IW」-日本語 4 + 「PR」-4	第 6 週 テキスト④ 8 章
第 7 週 「IW」-日本語 5 + 「PR」-5	第 7 週 テキスト④ 9 章
第 8 週 第 1~7 週のポートフォリオをもとに振り返り	第 8 週 第 1~7 週のポートフォリオをもとに振り返り
第 9 週 「IW」英語 5 + 「PR」-5	第 9 週 テキスト④ 10 章
第 10 週 「IW」英語 6 + 「PR」-6	第 10 週 テキスト④ 11 章
第 11 週 「IW」英語 7 + 「PR」-7	第 11 週 テキスト④ 12 章
第 12 週 「IW」英語 8 + 「PR」-8	第 12 週 Nvivo の応用 1
第 13 週 「IW」英語 9 + 「PR」-9	第 13 週 Nvivo の応用 2
第 14 週 「IW」英語 10 + 「PR」-10	第 14 週 修士論文概要発表会準備 1
第 15 週 第 9~14 週のポートフォリオをもとに振り返り	第 15 週 修士論文概要発表会準備 2

4. テキスト・参考文献
【テキスト】
 ① 阿部紘久「文章力の基本 100 題」光文社、2010 年、1,300 円+税
 ② 野矢茂樹「論理学トレーニング」東京大学出版 2006 年 2,200 円+税
 ③ 野矢茂樹「論理学トレーニング 101 題」東京大学出版 2006 年 2,000 円+税
 ④ Bazeley & Jackson. Qualitative Data Analysis with NVIVO, SAGE, 2013, ¥5,381
【参考文献】
 ① 石崎秀穂「あなたの文章がみるみるわかりやすくなる本」
 ② 福嶋隆史「ふくしま式 200 字メソッドで書く力は驚くほど伸びる！」大和出版、2010 年、1,500 円+税
 その都度、提示する。

5. 準備学習
 各週に出される課題、宿題をすること。

6. 成績評価の方法
 演習ポートフォリオ 50 点
 課題レポート(IW/PR) 50 点
 合計 100 点

7. 履修の条件
 将来、公衆衛生学および国際保健（グローバル・ヘルス）分野を専門としたい意思がある学生。

8. その他
 特になし。

科目名	健康科学研究演習 I			担当教員：平野 貴也			
科目名(英語)	Research Seminar in Health Sciences I			メールアドレス：t.hirano@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1532			
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー		
4	1	通年	2	人研 205	研究室に掲示		
<p>1. 授業の概要</p> <p>我が国ではスポーツ・レジャーレクリエーションの普及振興において、指導者の多様なかわり方が求められている。演習 I ではまずスポーツ・レジャーレクリエーション研究の動向について理解する。さらに文献ベースでの検討を進めると同時に、スポーツ・レジャーレクリエーションの普及振興もしくはコーチング現場での課題や問題点を見つける。問題点や課題を解決するための技法について調べ、学び、実践し、課題解決のための方法を探究する。</p> <p>2. 到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○スポーツコーチング・普及振興に関する国内及び海外の文献講読を行い、研究の動向を把握することができる。 ○スポーツ・レジャーの行事・イベントの企画と運営に参画し、実施上の課題を見つけることができる。 ○スポーツ・レジャーの技能を向上させるための指導法や安全管理に関する問題点を探求できる。 ○スポーツ・レジャーにおける調査・実験研究の方法を知り、エビデンスを用いたコーチングを実践できる。 <p>3. 授業の計画と内容</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学術研究の概要① 2. 文献購読&ディスカッション① 3. 文献購読&ディスカッション② 4. 文献購読&ディスカッション③ 5. 文献購読&ディスカッション④ 6. 事例研究ー野外スポーツ 7. 事例研究ーマリンスポーツ 8. 事例研究ーレジャー・レクリエーション 9. コーチング実践ー計画立案① 10. コーチング実践ー計画立案② 11. コーチング実践ー指導実習① 12. コーチング実践ー指導実習② 13. コーチング実践の評価 14. コーチング実践のまとめ 15. 前期のまとめと後期の課題設定 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学術研究の概要②と後期の進め方 2. 夏期テーマ研究の分析① 3. 夏期テーマ研究の分析② 4. 研究方法論① 5. 研究方法論② 6. 調査と分析① 7. 調査と分析② 8. スポーツイベントの実践ー計画立案① 9. スポーツイベントの実践ー計画立案② 10. スポーツイベントの実践ー運営&調査① 11. スポーツイベントの実践ー運営&調査② 12. 運営&調査の評価、発表準備 13. 調査発表とディスカッション 14. 修士論文概要発表準備① 15. 修士論文概要発表準備② </td> </tr> </table> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>テーマや内容に合わせて指定する。 適時、プリント等の配布を行う</p> <p>5. 準備学習</p> <p>授業時間以外のフィールドワークを大切に、スポーツ指導や普及振興を実践する中から常に課題を見つけ、課題を持って講義に取り組むこと。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業への取り組み状況 (50点) ○レポート課題・発表内容 (50点) <p style="text-align: right;">計 (100点)</p> <p>7. 履修の条件</p> <p>将来、スポーツ・レジャーレクリエーションの研究に携わりたい、もしくは指導現場で働く意思のある学生であること。スポーツの指導、企画、組織の運営など、実践活動を適宜行うので積極的に参加すること。</p> <p>8. その他</p> <p>特になし。</p>						<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学術研究の概要① 2. 文献購読&ディスカッション① 3. 文献購読&ディスカッション② 4. 文献購読&ディスカッション③ 5. 文献購読&ディスカッション④ 6. 事例研究ー野外スポーツ 7. 事例研究ーマリンスポーツ 8. 事例研究ーレジャー・レクリエーション 9. コーチング実践ー計画立案① 10. コーチング実践ー計画立案② 11. コーチング実践ー指導実習① 12. コーチング実践ー指導実習② 13. コーチング実践の評価 14. コーチング実践のまとめ 15. 前期のまとめと後期の課題設定 	<p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学術研究の概要②と後期の進め方 2. 夏期テーマ研究の分析① 3. 夏期テーマ研究の分析② 4. 研究方法論① 5. 研究方法論② 6. 調査と分析① 7. 調査と分析② 8. スポーツイベントの実践ー計画立案① 9. スポーツイベントの実践ー計画立案② 10. スポーツイベントの実践ー運営&調査① 11. スポーツイベントの実践ー運営&調査② 12. 運営&調査の評価、発表準備 13. 調査発表とディスカッション 14. 修士論文概要発表準備① 15. 修士論文概要発表準備②
<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学術研究の概要① 2. 文献購読&ディスカッション① 3. 文献購読&ディスカッション② 4. 文献購読&ディスカッション③ 5. 文献購読&ディスカッション④ 6. 事例研究ー野外スポーツ 7. 事例研究ーマリンスポーツ 8. 事例研究ーレジャー・レクリエーション 9. コーチング実践ー計画立案① 10. コーチング実践ー計画立案② 11. コーチング実践ー指導実習① 12. コーチング実践ー指導実習② 13. コーチング実践の評価 14. コーチング実践のまとめ 15. 前期のまとめと後期の課題設定 	<p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学術研究の概要②と後期の進め方 2. 夏期テーマ研究の分析① 3. 夏期テーマ研究の分析② 4. 研究方法論① 5. 研究方法論② 6. 調査と分析① 7. 調査と分析② 8. スポーツイベントの実践ー計画立案① 9. スポーツイベントの実践ー計画立案② 10. スポーツイベントの実践ー運営&調査① 11. スポーツイベントの実践ー運営&調査② 12. 運営&調査の評価、発表準備 13. 調査発表とディスカッション 14. 修士論文概要発表準備① 15. 修士論文概要発表準備② 						

科目名	健康科学研究演習Ⅱ			担当教員：小川 寿美子	
科目名(英語)	Research Seminar in Health Sciences II			メールアドレス：sumiko@mei-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1148	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	2	通年	2	研 526	研究室前に掲示

1. 授業の概要
最終年次である演習Ⅱでは、論理的な文章力と文献の読解力を養うための基礎固めをするため、論理的な英語を書く技術の修得と、人間健康科学、とりわけ公衆衛生学や国際保健に関する数多くの論文、資料を精読し、多方面からの知識を涵養する。併せて、修士論文の執筆を完成させる。

2. 到達目標
演習Ⅱの構成は、前半90分が、毎週ゼミ生が準備する課題である英文エッセイをゼミの仲間同士のエディティングを通じて、英作文力を養うことができる。後半90分が、毎週ゼミ生が準備する課題である興味のある先行研究論文を200字でレビューを提出、その内容に関して仲間同士でクリティカルディスカッションを通じて、専門分野での最先端の研究内容の理解と批判的思考力を養うことができる。

3. 授業の計画と内容

前期 (Interactive Writing 「IW」+Paper Review 「PR」)	後期 (Master thesis+Paper Review 「PR」)
第1週 演習Ⅱ 前期の目標・概要説明	第1週 演習Ⅱ 後期の目標・概要説明
第2週 テキスト①、参考書②の説明	第2週 修士論文+ 「PR」 -1
第3週 「IW」-英語1 + 「PR」 -1	第3週 同上 + 「PR」 -2
第4週 「IW」-英語2 + 「PR」 -2	第4週 同上 + 「PR」 -3
第5週 「IW」-英語3 + 「PR」 -3	第5週 同上 + 「PR」 -4
第6週 「IW」-英語4 + 「PR」 -4	第6週 同上 + 「PR」 -5
第7週 「IW」-英語5 + 「PR」 -5	第7週 同上 + 「PR」 -6
第8週 第1~7週のePortfolioをもとに振り返り	第8週 第1~7週のePortfolioをもとに振り返り
第9週 「IW」-英語5 + 「PR」 -5	第9週 修士論文最終発表準備 + 「PR」 -7
第10週 「IW」-英語6 + 「PR」 -6	第10週 同上 + 「PR」 -8
第11週 「IW」-英語7 + 「PR」 -7	第11週 同上 + 「PR」 -9
第12週 「IW」-英語8 + 「PR」 -8	第12週 同上 + 「PR」 -10
第13週 「IW」-英語9 + 「PR」 -9	第13週 同上 + 「PR」 -11
第14週 「IW」-英語10 + 「PR」 -10	第14週 同上 + 「PR」 -12
第15週 第9~14週のePortfolioをもとに振り返り	第15週 修士論文最終発表 本番

4. テキスト・参考文献
【テキスト】
① Zemach, Dorothy E. Paragraph Writing: From Sentence to Paragraph, Macmillan Education, 2004.
② Macmillan, Writing Essays, Education Australia, 2011.
③ Colin Robson. Real World Research: A Resource for Social Scientists and Practitioner- Researchers. Blackwell Pub. 2002.
【参考文献】
その都度、提示する。

5. 準備学習
各週に出される課題、宿題をすること。

6. 成績評価の方法
修士論文に関する課題 50点
ePortfolio (研究プロセス) 50点
合計 100点

7. 履修の条件
将来、公衆衛生学および国際保健 (グローバル・ヘルス) 分野を専門としたい意思がある者。
原則として本教員の健康科学研究演習Ⅰを取得している院生が対象。

8. その他
特になし。

科目名	健康科学研究演習Ⅱ			担当教員：平野 貴也	
科目名(英語)	Research Seminar in Health Sciences II			メールアドレス：t.hirano@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1532	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	2	通年	2	人研 205	研究室に掲示

1. 授業の概要

演習Ⅱではこれまで研究を進めてきたテーマに基づき、スポーツ・レジャー・レクリエーションの普及振興、スポーツ指導、コーチングに関する論文、文献を数多く精読する。研究計画を作成し、調査、分析を行い、修士論文を完成させる。発表と論議を通じてリサーチ力とプレゼンテーション力、実践力の向上を図る。

2. 到達目標

- 科学的方法に則った一般的な学術論文を書けるようになる。
- 研究成果を発表できるようになる。

3. 授業の計画と内容

前期

1. 研究テーマの設定 1
2. 研究テーマの設定 2
3. 研究計画の確認
4. 先行研究の分析と検討 1
5. 先行研究の分析と検討 2
6. 先行研究の分析と検討 3
7. 先行研究の分析と検討 4
8. 調査実験の実施 1
9. 調査実験の実施 2
10. 調査実験の実施 3
11. 調査実験の実施 4
12. データの分析 1
13. データの分析 2
14. データの分析 3
15. 夏休みの研究の進捗と課題設定

後期

1. 研究結果の報告と論議 1
2. 研究結果の報告と論議 2
3. 研究結果の報告と論議 3
4. 研究結果の報告と論議 4
5. 研究結果の報告と論議 5
6. 研究結果の報告と論議 6
7. 論文執筆の報告と吟味 1
8. 論文執筆の報告と吟味 2
9. 論文執筆の報告と吟味 3
10. 論文執筆の報告と吟味 4
11. 論文発表の準備 1
12. 論文発表の準備 2
13. 論文発表に準備 3
14. 論文発表の準備 4
15. 論文の発表

4. テキスト・参考文献

テーマや内容に合わせて指定する。
適時、プリント等の配布を行う

5. 準備学習

各週に出される課題、進度に合わせて進めること。

授業時間以外のフィールドワークを大切に、研究テーマについて学部生、院生と積極的にディスカッションを行う。

6. 成績評価の方法

- 授業への取り組み状況 (50点)
 - レポート課題・発表内容 (50点)
- 計 (100点)

7. 履修の条件

将来、スポーツ・レジャー・レクリエーションの研究に携わりたい、もしくは指導現場で働く意思のある学生であること。

原則として平野の演習Ⅰを履修していること。

8. その他

特になし。

科目名	グローバル・ヘルス特論			担当教員：小川 寿美子									
科目名(英語)	Advanced Course of Global Health			メールアドレス：sumiko@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1148									
単位数	受講年次	開講学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー								
2	1・2	後期	2	研 526	研究室前に掲示								
<p>1. 講義内容</p> <p>グローバルヘルスは、グローバルな規模の健康課題であり、各国の考え方や関心事を超越するものである。国境を超える健康問題や、グローバルな政治的及び経済的な影響を取り上げ、またそれについて研究する公衆衛生、疫学、医学、人口学、医療人類学、医療経済学、開発経済学、政治学、社会学などからなる複合的な学問領域を指し、様々な学問領域から、国際的コンテキストにおける健康の決定要因や資源の配分を学ぶ。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>地球規模の健康に関わる諸問題について理解できるようになる。また健康問題について、英語で理解・表現できるようになる。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第1週 What is Global Health ? The Principles, Measurements, and the Health-Development Link 第2週 Health Developments, Measurements, and Trends 第3週 Health, Education, Poverty, and the Economy 第4週 Ethical and Human Rights Concerns in Global Health 第5週 An Introduction to Health System 第6週 Culture and Health 第7週 The Environment and Health 第8週 Nutrition and Global Health 第9週 Women's and Child Health 第10週 Communicable Diseases 第11週 Non-communicable Diseases 第12週 Natural Disasters and Complex Humanitarian Emergencies 第13週 Working Together to Improve Global Health 第14週 Science, Technology, and Global Health 第15週 Working in Global Health 第16週 Final Exam</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】</p> <p>Skolnick, R. Global Health 101. Jones & Bartlett Learning. 7,542 円. 2012 年 「グローバル人間学の世界」中村安秀（編）大阪大学出版会. 2,400 円+税. 2011 年 「A Look at Global Health & Environment with VOA」松柏社. 1,900 円+税. 2009 年</p> <p>【参考文献】</p> <p>(DVD) 「VOA で知る健康と環境—屋上菜園から牛ゲノム解読まで」安浪誠祐 2010 年 CLIL 英語で学ぶ国際問題—CLIL GLOBAL ISSUES」笹島茂 2,052 円 2014 年 小川寿美子（責任編集）. 「沖縄の保健医療の経験」シリーズ（8編：DVD3 枚）国際協力機構. 2000. \700 枚</p> <p>5. 準備学習</p> <p>テキストを事前に読んでまとめること（発表をしてもらうこともある）。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <table border="0"> <tr> <td>活動（発表など）</td> <td>30 点</td> </tr> <tr> <td>課題</td> <td>30 点</td> </tr> <tr> <td>期末テスト</td> <td>40 点</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>100 点</td> </tr> </table> <p>7. 履修の条件</p> <p>共通科目「健康科学特論」を受講中、あるいは受講済みのしたもの。 英語の理解力のある者（英検 2 級、TOEIC700 点以上）。</p> <p>8. その他</p> <p>将来、国際的な仕事に従事したい、意欲ある学生の受講を期待する。</p>						活動（発表など）	30 点	課題	30 点	期末テスト	40 点	計	100 点
活動（発表など）	30 点												
課題	30 点												
期末テスト	40 点												
計	100 点												

科目名	健康心理学特論			担当教員：宮城 政也 (非常勤講師) メールアドレス：masaya@edu.u-ryukyu.ac.jp 研究室電話番号：098-895-8438 (琉球大学・宮城研究室直通番号)	
科目名(英語)	Health Psychology				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期 (集中講義)	3	非常勤講師控室	講義終了後

1. 授業の概要

現代社会における健康問題に関する心理学的な究明ならびに健康教育や健康政策の策定などの心理学的役割について教授する。

2. 到達目標

現代社会における健康の維持,増進についての心理学的考察や心理学的視点を踏まえた健康教育 (疾病予防)の基礎的なプログラム作成ができる。

3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 ガイダンス, 健康心理学とは, 健康心理学の役割
- 第 2 週 健康心理学とヘルスリスク
- 第 3 週 ヘルスリスクとライフスキル
- 第 4 週 Health Risk Behavior に関する文献 (国内外) 講読
- 第 5 週 Health Risk Behavior に関するプレゼンテーション, ディスカッション
- 第 6 週 Vulnerable Populations に関する海外文献講読
- 第 7 週 Vulnerable Populations に関するプレゼンテーション, ディスカッション
- 第 8 週 Social Capital に関する海外文献講読
- 第 9 週 Social Capital に関するプレゼンテーション, ディスカッション
- 第10週 ヘルスプロモーション, ヘルスプロモーションスクールについて
- 第11週 健康教育, 健康行動理論について
- 第12週 現代社会とストレス I
- 第13週 現代社会とストレス II
- 第14週 ストレスマネジメント教育
- 第15週 臨床健康心理学の基礎
- 第16週 テスト

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし

【参考文献】

講義中適宜資料配布

5. 準備学習

講義中指定する論文を熟読すること。

6. 成績評価の方法

テ ス ト： 70 点

プレゼンテーション： 30 点

合 計：100 点

7. 履修の条件

特になし。

8. その他

特になし。

科目名	健康栄養学特論			担当教員：新城 澄枝 (非常勤講師) メールアドレス：shinjots@beach.ocn.ne.jp 研究室電話番号：							
科目名(英語)	Special Topics in Health Nutrition										
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー						
2	1・2	前期	2～3	非常勤講師控室	講義終了後						
<p>1. 授業の概要</p> <p>食事の意義、食と健康の関係、わが国ならびに諸外国における食の現状・課題と健康問題、健康・栄養政策、食生活指針などについて考究する。さらに、食品の安全・安心、食を選択する能力を培い科学的根拠に基づいた正しい食生活実践のために、四群点数法について学習する。また、沖縄の食文化に触れ長寿との関連で学習を深める。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>生活の中での食事の意義や現代における食生活と健康問題との関連、それをふまえた国や地方の健康・栄養政策について理論・知識を深める。現代の食の課題であるメタボリックシンドロームの概念に基づく生活習慣病予防や食品の安全・安心、食を選択する能力を培い、健康の為の食の自己管理能力を高める。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第1週 食生活の重要性 第2週 健康栄養学・基礎①：食品の成分と機能、安全性 第3週 健康栄養学・基礎②：消化吸収、代謝 第4週 日本の食生活の変遷と健康（食品ならびに栄養素摂取量の変化と疾病構造の変化） 沖縄の食生活の変遷と健康（食品ならびに栄養素摂取量の変化と疾病構造の変化） 第5週 わが国の食をめぐる現状と課題Ⅰ（母性期、乳幼児期の健康栄養問題） 第6週 わが国の食をめぐる現状と課題Ⅱ（青年期：18歳までに育てたい食の自己管理能力） 第7週 わが国の食をめぐる現状と課題Ⅲ（壮年期：食生活と生活習慣病・メタボリックシンドロームの概念） わが国の食をめぐる現状と課題Ⅳ（高齢期、慢性疾患：低栄養の予防） 第8週 沖縄百寿者に学ぶ健康のための食生活 第9週 わが国の健康・栄養政策：「健康日本21（第二次）」と地方施策 第10週 「食育基本法」、「食育推進基本計画（第二次）」と地方施策 第11週 世界の食文化類型と健康問題の特徴、健康・栄養政策、食生活指針 第12週 バランスのとれた食生活の実践（生活習慣病発症予防のための食生活：四群点数法の基礎） 第13週 正しい減量のための食生活実践（生活習慣病の重症化予防、アスリートの減量：四群点数法応用Ⅰ） 第14週 低栄養予防のための食生活実践（貧血、肝疾患、感染症、糖尿病性腎症など：四群点数法応用Ⅱ） 第15週 四群点数法、体重計、血圧計を活用した生活習慣病の発症・重症化予防のための賢い食事管理</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】 適宜資料を配布する。四群点数法を活用した糖尿病療養のための賢い食事管理、ニライ社（無償配布）</p> <p>【参考文献】 (1) 「新しい食物学—食生活と健康を考える— 改訂第2版」加藤陽治/長沼誠子 編集、南江堂、2009年 (2) 「標準的な健診・保健指導プログラム（確定版）：全4冊」厚生労働省健康局、平成19年4月 (3) 「公衆栄養学」古畑公・松村康弘・鈴木三枝 編著、光生館、2013年4月 (4) 「健康の科学シリーズ9 沖縄の長寿」日本栄養・食糧学会監修、学会センター関西学会出版センター</p> <p>5. 準備学習 健康と食生活に関する文献を、幅広く読むこと。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <table border="0"> <tr> <td>授業での活動状況</td> <td>50点</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>50点</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>100点</td> </tr> </table> <p>7. 履修の条件 特になし。</p> <p>8. その他 特になし。</p>						授業での活動状況	50点	レポート	50点	合計	100点
授業での活動状況	50点										
レポート	50点										
合計	100点										

科目名	社会福祉学特論			担当教員：宮國 康弘	
科目名(英語)	Advanced Course of Social Welfare			メールアドレス：yasuhiro@miyaguni.net	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2		後期			

1. 授業の概要

日本は 2040 年頃には、団塊ジュニア世代が高齢者となり、高齢者人口がピークを迎える（高齢者数 3920 万人、高齢化率 35.3%）。また、少子高齢化に伴い人口構成が変化し、晩婚化と出産年齢の上昇、非正規雇用の増加なども影響して、8050 世帯（高齢の親と働いていない 50 代の子どもが同居している世帯）や、育児と介護が同時に起こる「ダブルケア」、社会的孤立など、問題が複雑化・多様化してきている。さらに、このような社会環境による社会経済的要因や地域間による健康状態の差＝健康格差も日本国内にあることが明らかとなっている。WHO 総会決議（2009 年）の世界的な動きもあり、厚生労働省も「健康日本 21（第 2 次）」で「健康格差の縮小」を目指すことを宣言した。

本講義では、急速に変化し多様化する日本社会における健康格差社会の実態と、その対策について学び、社会福祉実践に役立つような基礎的知識を習得することを目指す。

2. 到達目標

- ・健康格差社会がなぜ生まれるのか理解し説明ができる
- ・健康格差社会の対策について何ができるのか理解し説明ができる

3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 ライフコース・アプローチ
- 第 2 週 仕事と健康
- 第 3 週 遺伝と環境
- 第 4 週 歴史に学ぶ・遅ればせの教訓（レイト・レッスン）に学ぶ
- 第 5 週 社会保障は経済を停滞させる？
- 第 6 週 「健康格差」対策の総合戦略
- 第 7 週 個人・家庭レベルの危険因子への戦略
- 第 8 週 職場・職域における対策
- 第 9 週 健康なまちづくり
- 第 10 週 ソーシャル・キャピタル
- 第 11 週 マクロレベルにおける対策
- 第 12 週 ハイリスク・アプローチの限界とそれに代わるもの
- 第 13 週 ポピュレーション・アプローチの具体化
- 第 14 週 国内外にみる変化の兆し
- 第 15 週 健康格差対策のための 7 原則

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

「健康格差社会への処方箋」近藤克則 編，医学書院，2017 年（第 1 版）2,500 円（税抜）

【参考文献】

「長生きできる町」近藤克則，角川新書，2018 年（第 1 版）860 円（税抜）

「命の格差は止められるか」イチロー・カワチ，小学館（第 1 版）720 円（税抜）

「つながりと健康格差」村山洋史，ポプラ新書（第 1 版）800 円（税抜）

5. 準備学習

テキストを事前に予習すること

6. 成績評価の方法

授業での活動状況 50 点

最終課題レポート 50 点

合計 100 点

7. 履修の条件

特になし

8. その他

必要に応じて資料を配付します。

科目名	地域保健学特論			担当教員：吉川 千恵子（非常勤講師）	
科目名(英語)	Community health science			メールアドレス： 研究室電話番号：	
単位数	受講年次	開講学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	2～3	非常勤講師控室	講義終了後
<p>1. 講義内容</p> <p>健康・ウェルネス、ヘルスプロモーションの概念を基礎として、地域社会・生活・文化から生ずる健康問題や、現在、国の健康政策として展開している「健康日本21（第2次）」が沖縄県や市町村でどのように実践されているか、各健康レベルとライフサイクルの視点から考究する。また、地方自治体における健康政策づくり、保健計画策定・施策化と予算のしくみ、それに対応する地域保健医療活動のエレメントやツールを理解し、人々の健康支援などにおいて総合的企画者・協働的実践者の視点から、地域保健医療システムの開発に参画する。さらに教育研究者としての生きる知識と技法を会得し、沖縄の地域における実践例から保健医療問題と解決策を考察する。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>教育研究者としての生きる知識と技法を会得する。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第1回 地域保健学の概念</p> <p>第2回 地域保健の理論・キーワード</p> <p>第3回 地域社会・生活・文化と健康問題</p> <p>第4回 「健康日本21（第2次）」と地域保健活動</p> <p>第5回 「健康おきなわ21」と地域保健活動、事例「健康なご21」と地域保健活動</p> <p>第6回 地域保健活動のエレメント</p> <p>第7回 地域保健医療福祉行政と活動</p> <p>第8回 地方自治体における健康政策づくり、保健計画策定、施策化と予算のしくみ</p> <p>第9回 同上</p> <p>第10回 地域保健活動の実際1（県保健福祉行政・福祉保健所）</p> <p>第11回 地域保健活動の実際2（市町村）</p> <p>第12回 地域保健活動の実際3（職域）</p> <p>第13回 地域保健活動と地域保健システム</p> <p>第14回 地域健康危機管理</p> <p>第15回 地域保健管理・健康評価</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】</p> <p>開講時に指定する。</p> <p>【参考文献】</p> <p>(1) 健康の政策科学 編集：新井宏明他 医学書院 1997年</p> <p>(2) 地域づくり型保健活動のすすめ 著者：岩永俊博 医学書院 1995年</p> <p>(3) 公衆衛生学、第3版 看護学 編集：後閑容子他 インターメディカル 2012年</p> <p>5. 準備学習</p> <p>講義の履修に際し、予習と復習を行うこと。</p> <p>6. 評価方法</p> <p>活動状況 50点</p> <p>課題レポート 50点</p> <p>合計 100点</p> <p>7. 履修の条件</p> <p>授業は、講義と受講生との双方向型で進める。</p> <p>「国民衛生の動向」または「衛生行政大要」の事前学習を勧める。</p> <p>8. その他</p> <p>特になし。</p>					

科目名	健康・スポーツ指導特論			担当教員：高瀬 幸一	
科目名(英語)	Instructing Health and Sports			メールアドレス：k_takase@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1082	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	3	研 524	火3・木4

1. 授業の概要

健康増進やスポーツ振興においては、専門的な知識を如何にして目的に応じて効果的に伝えるかが重要になる。今日の健康科学やスポーツ科学の進歩はめまぐるしいものがあり、「健康科学やスポーツ科学」に関する正しい理論・知識を習得し、それを実践していく手法（スキル）を身につけることが必要となる。

また、超高齢化社会の今日、一般健常者や中・高齢者、高齢者における健康教育や運動指導などは、十分になされているとは言い難い現状がある。

本特論は、日進月歩する分野における最新の理論を論じながら、健康・スポーツの役割やその理論について考察する。

2. 到達目標

1. 健康指導における専門的な知識を習得できる。
2. 健康増進に関する専門的な知識を実践の場で活用できる。
3. 健康指導における取り組みの事例について理解できる。

3. 授業の計画と内容

授業は全て AL 形式にて実施する。また ICT を活用して行う。

第1週 オリエンテーション

講義の概要についての説明

第2週 健康・スポーツの分野が担う役割とは

健康・スポーツについて理解をするとともに、様々な健康観について考えて行く。また、今日の健康に関する世界と日本の現状について学ぶとともに、その現状をもとに健康についてディスカッションを行う

第3週 日本の人口動態と高齢化の問題

高齢化に伴う我が国が抱える諸問題についてデータを用いて考えるとともに、現在の状況や今後の課題・対策について考えていく。

第4週 沖縄の長寿と健康問題

かつて世界的長寿地域とされていた沖縄県であるが、現在は危機的な健康の状況になっている。その原因について考えるとともに、これからの沖縄の健康についてディスカッションを交えて展開していく

第5週 平均寿命上位にみる長野県の健康増進についての取り組み ICT を活用。

1960年代まではの脳卒中による死亡率が全国でもワーストであった長野県であるが、現在では我が国を代表する長寿県へと躍進した。その躍進の秘密は何にあるのか、例を取り上げ考えていく

第6週 ファストフードと健康問題 ICT を活用。

2006年に食育基本法が制定され、食と健康の関係について学習して行くことが求められる今日となっている。ここでは、ファストフードと健康についてを中心的に取り上げ、現代における食と健康について考えて行く。

第7週 健康教育とポピュレーションアプローチ

健康増進のための施策を考えるにあたり、どのような層にターゲットを置くかで効果が異なってくる。ここでは、健康増進の施策の効果的な手法について説明を行う

第8週 ソーシャルキャピタル、ロール、ツール、ルールの相互関係、コミュニケーションオーガニゼーション

地域の健康を高めるために重要な指標にソーシャルキャピタルという概念がある。このソーシャルキャピタルと言うのは、社会的規範と捉えられているが、地域社会の健全化を図る上においては極めて大切な指標になってくる。ここではソーシャルキャピタルの概念について説明するとともに、その現状についても考えていくこととする。また、ロール、ツール、ルールの相互関係、コミュニケーションオーガニゼーションについて学ぶとともに、それらを活用したコミュニティにおける健康増進の効果的な方法について考えていく

- 第9週 我が国における優れたスポーツ・健康増進の施策・取り組みについて ICT活用
我が国では、様々な自治体、団体等が健康増進活動を実施している。ここでは国単位で特に優れた取り組みと認められた活動についていくつか紹介を行い、効果的な健康増進の取り組みの実戦について考えていく
- 第10週 我が国における優れたスポーツ・健康増進の施策・取り組みについて その2 ICT活用
我が国では、様々な自治体、団体等が健康増進活動を実施している。ここでは国単位で特に優れた取り組みと認められた活動についていくつか紹介を行い、効果的な健康増進の取り組みの実戦について考えていく
- 第11週 我が国における優れたスポーツ・健康増進の施策・取り組みについて その3 ICT活用
我が国では、様々な自治体、団体等が健康増進活動を実施している。ここでは国単位で特に優れた取り組みと認められた活動についていくつか紹介を行い、効果的な健康増進の取り組みの実戦について考えていく
- 第12週 名桜大学の健康支援
本学は全国的に見ても非常にユニークな健康増進活動を展開している。本講義では、その例を取り上げ、効果的なヘルスプロモーションについて考えていく
- 第13週 サクセスフルエイジング：生理的側面から探求する健康長寿について ICTを活用。
免疫と腸内細菌との関係について、医学的・生理学的側面から長寿について考えていく。動画を用いる
- 第14週 サクセスフルエイジング：生理的側面から探求する健康長寿について その2 ICTを活用。
老化の情報理論が導く長寿革命についてと、ゲノムとエピゲノムについて考えていく。
- 第15週 サクセスフルエイジング：健康的な100歳高齢者の秘密
人生100歳社会に突入しようとしている。社会的な背景からも健康で長生きすることが求められている。健康で100歳生きるためには、どのような生活習慣が必要なのか？実際の例を取り上げながら、健康長寿について考えていく
- 第16週 サクセスフルエイジング：健康的な100歳高齢者の秘密 その2 ICTを活用 まとめ
世界には健康でパワフルな100歳高齢者が多くいる。その高齢者の秘密について紐解くとともに、これからの100歳長寿社会について考えていく

4. テキスト・参考文献

適宜資料として配付する。

5. 準備学習

講義の履修に際し、予習と復習を行うこと。

6. 成績評価の方法

討論への参加：50点、レポート：50点、合計：100点

7. 履修の条件

特になし。

8. その他

特になし。

科目名	伝統武道特論			担当教員：盧 姜威（非常勤講師） メールアドレス：lujiangwei320@gmail.com 研究室電話番号：	
科目名(英語)	Traditional Japanese Martial Arts				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	1～5	非常勤講師控室	講義終了後

1. 授業の概要

この授業科目において、武道に内在する日本文化の本質を理解し、スポーツと異なる日本伝統武道の特質の理解を深めていくと同時に、武道全般にわたる基礎知識を的確に把握する。その上、沖縄伝統空手の歴史の変遷について考察していく。

2. 到達目標

武道全般にわたる基礎知識を的確に把握する。文献資料の蒐集、分析、考察などの研究方法の基本を身につける。

3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 受講心得について
- 第 2 週 世界武芸文化の概観
- 第 3 週 日本伝統武道の諸相
- 第 4 週 日本武道成立の歴史的要件
- 第 5 週 日本武道の歴史的な歩み
- 第 6 週 技芸文化としての武道
- 第 7 週 武道とスポーツ
- 第 8 週 中国・日本・沖縄の文武両道観
- 第 9 週 沖縄伝統空手道の事象①—廃藩置県前
- 第 10 週 沖縄伝統空手道の事象②—明治期
- 第 11 週 沖縄伝統空手道の事象③—大正期
- 第 12 週 沖縄伝統空手道の事象④—昭和期
- 第 13 週 沖縄伝統空手道の組織化
- 第 14 週 沖縄伝統空手道の国際化
- 第 15 週 まとめ
- 第 16 週 期末試験（或いはレポート提出）

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布する。

【参考文献】

- (1) 中林信二（著）『武道のすすめ』中林信二先生遺作集刊行会 1987年
- (2) 高橋富雄（著）『武士の心日本の心：武士道評論集』（上巻）近藤出版社 1991年
- (3) 高宮城繁・比嘉敏雄・比嘉勝芳（編著）『沖縄空手道概説—武道空手の諸相—』沖縄空手道協会北谷道場 1996年
- (4) 田中守・〔ほか〕（著）『武道を知る』不昧堂出版 2000年
- (5) 高宮城繁・比嘉敏雄（編著）『武魂—奥妙在錬心』沖縄空手道協会北谷道場 2002年
- (6) 新渡戸稲造（著） 奈良本辰也（訳）『武士道』三笠書房 2004年

5. 準備学習

事前に配布した資料を予習する。

6. 成績評価の方法

受講態度	50点
課題発表	20点
期末試験	30点
合計	100点

7. 履修の条件

特になし。

8. その他

特になし。

科目名	スポーツトレーニング・コーチング特論			担当教員：平野 貴也	
科目名(英語)	Sports Training & Coaching			メールアドレス：t.hirano@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1532	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	3	人研205	研究室に掲示
<p>1. 授業の概要</p> <p>種目特性に応じたパフォーマンス向上のためのトレーニングのあり方とコーチングの原則やコーチング理論と方法論について理解し、競技選手はもちろん、ジュニアから高齢者まで生涯を通じての健康で生き生きとした生活を送るためのトレーニング指導・指導方法について学ぶ。テーマを設定し、テーマに関する文献を読み、効果的にトレーニング・コーチングを行うための問題解決法や評価法を取り上げて検討を加えるとともに、実践事例を踏まえながらトレーニング・コーチングについてディスカッションを行う。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>身体的トレーニングおよびコーチングの原則に基づいて健康維持増進、競技力向上に効果的なスポーツの実践法およびトレーニング法・指導方法に関する専門的知識および理論の理解を深める。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第1回 オリエンテーション（コーチングの原則） 第2回 トレーニングの基礎的理解と指導方法（パフォーマンスの向上、指導者の役割の理解） 第3回 目標設定とコーチングスタイルの確立（指導目標の設定、運動者の問題と課題） 第4回 選手とのコミュニケーション（コーチングにおけるコミュニケーションスキルの理解） 第5回 コーチングスキル（モチベーションの高揚） 第6回 運動スキル獲得の特性（特性の理解と指導方法） 第7回 トレーニング計画①（年齢、体力、心身の発達に応じた適時性） 第8回 トレーニング計画②（年間計画や期間計画、ケガの予防と対処） 第9回 トレーニング方法と指導法①（レジスタンス系） 第10回 トレーニング方法と指導法②（有酸素系） 第11回 トレーニング分析と評価（パフォーマンスの分析と評価方法、フィードバックの活用） 第12回 コーチング・トレーニング環境の整備（技術、用具、練習時間、費用、安全管理） 第13回 トレーニングに関する諸問題（文献・論文を読みレポートし、事例をあげてディスカッション） 第14回 コーチングに関する諸問題（文献・論文を読みレポートし、事例をあげてディスカッション） 第15回 発表とまとめ（トレーニング・コーチングに関する課題についてまとめ、発表）</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>適時プリントを配布する。</p> <p>5. 準備学習</p> <p>講義の履修に際し、予習と復習を行うこと。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <p>受講態度・学習への取り組み 40点 発表の内容 30点 レポート課題 40点</p> <p>7. 履修の条件</p> <p>特になし。 ※予習：次回のテーマについての文献を精読しておくこと。</p> <p>8. その他</p> <p>トレーニング実践及び指導実践を伴う内容については連続した講義時間が必要となるため週末もしくは夏季休暇期間に実施する予定である。</p>					

科目名	ヘルスプロモーション・ウェルネス特論		担当教員：野崎 康明（非常勤講師）		
科目名(英語)	Health Promotion and Wellness		メールアドレス： 研究室電話番号：		
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	5	非常勤講師控室	講義終了後
<p>1. 講義内容</p> <p>より幸福で充実した人生を目標とするウェルネス概念を中心として、ヘルスプロモーション・ウェルネス論の歴史と概念を学び、実習を通してより深く理解し、各自がよりよい健康生活プログラムの作成が可能となる能力を習得することを目指す。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>上記の講義内容を理解し、ヘルスプロモーション・ウェルネスの計画および実践について活用できるようになることを目標とする。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第1回 授業についてのオリエンテーションと自己紹介実習 第2回 ヘルスプロモーション・ウェルネス概念の歴史と三角形実習 第3回 ウェルネス概念の理解と行動変容の実習 第4回 〃 第5回 ストレスマネジメント論とストレスチェック実習 第6回 リラクゼーション理論とリラクゼーション実習 第7回 コミュニケーションの理論と実習 第8回 〃 第9回 タイムマネジメント理論と実習 第10回 人生設計論と実習 第11回 デスラーニング論と実習 第12回 ホスピスについての学び 第13回 余暇の過ごし方と実習 第14回 ウェルネス保養論 第15回 ヘルスプロモーション・ウェルネスプログラムの作成 第16週 まとめ</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】 特になし</p> <p>【参考文献】</p> <p>(1) 島之内憲夫 訳、21世紀の健康戦略3 ヘルスプロモーション～戦略・活動・研究政策～、垣内出版、¥1,800+税 (2) 野崎康明 著、ウェルネスの理論と実践、丸善メイツ、1994年、(現在絶版、ただし、大学図書館に在庫あり) (3) 島之内憲夫 編著、ヘルスプロモーション講座、順天堂大学ヘルスプロモーション・リサーチセンター、2005年 (4) 島之内憲夫 編訳、21世紀の健康戦略4～ヘルシー・ライフ～新しい公衆衛生を目指して～、垣内出版、¥2,000+税 (5) 野崎康明 著 ウェルネスマネジメント メイツ出版</p> <p>5. 準備学習</p> <p>事前に参考文献を読み込んでおくこと。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <p>評価は次の視点から総合的に行う</p> <p>(1) 授業への取り組み(30点)：授業態度、討論・グループワークへの積極的参加 (2) 課題レポート(70点)</p> <p>7. 履修の条件要件</p> <p>特にないが、健康政策立案に関心のあることが望ましい。</p> <p>8. その他</p> <p>(1) 集中講義となるので、上記の講義は4回(又は5回)に分けて行う。 (2) 講義の形態は講義と実習を主体とし、討論、グループワークも行う。</p>					

科目番号	科目名	スポーツ文化特論		担当教員：大峰 光博	
	科目名 (英語)	Advanced Course of Sport Culture		E-mail : m.omine@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後学期	5	人間健康学部実験実習棟 210	火曜 2 限、木曜 2 限、
<p>1. 授業の概要：</p> <p>2011年6月にスポーツ基本法が公布され、「スポーツは、世界共通の人類の文化である。」と明記された。スポーツに対する社会的な期待は大きい一方で、2018年にはスポーツ界の不祥事がマスメディアにおいて大きく取り上げられた。本授業ではスポーツ文化の功罪について、哲学と歴史の観点から検討する。スポーツ文化論の知見を提示しつつ、現在進行形で生じているスポーツの諸問題についてディスカッションを行う。</p> <p>2. 教育目標：</p> <p>(1) 現在進行形で生じているスポーツの諸問題について理解する。 (2) スポーツ哲学とスポーツ史の学術的成果を理解する。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション (授業の概要と進め方、成績評価、受講上の注意点) スポーツ概念の検討 (スポーツマンシップ概念の変遷) オリンピックレガシーの検証① (古代オリンピックの終焉と近代オリンピックの復興) オリンピックレガシーの検証② (オリンピックの経済効果) オリンピックレガシーの検証③ (1964年の東京オリンピックと沖縄の聖火リレー) ドーピング① (近年のドーピング事例と方法) ドーピング② (スポーツ哲学領域におけるドーピングの是非論) 運動部活動の課題 (教員の働き方改革) プレゼンテーションとディスカッション スポーツにおける暗黙のルールという文化 (野球の報復死球、乱闘) スポーツと暴力① (スポーツにおける体罰、ハラスメント事例) スポーツと暴力② (スポーツと暴力の親和性) スポーツと差別① (スポーツにみる階級差別と人種的ステレオタイプ) スポーツと差別② (能力差別としてのスポーツ、中島義道による差別論) 授業の総括 <p>4. 参考文献：</p> <p>川谷茂樹著『スポーツ倫理学講義』(ナカニシヤ出版、2005年) 大峰光博著『野球における暴力の倫理学』(晃洋書房、2016年) 大峰光博著『スポーツにおける逸脱とは何か：スポーツ倫理と日常倫理のジレンマ』(晃洋書房、2019年)</p> <p>5. 準備学習：</p> <p>図書、新聞、雑誌などを通して、スポーツに関する諸問題について調べておくことが望ましい。</p> <p>6. 成績評価の方法：</p> <p>授業でのプレゼンテーション・ディスカッション (40点) と期末報告レポート (60点) の結果から評価する。</p> <p>7. 履修の条件：</p> <p>特になし。</p> <p>8. その他：</p> <p>シラバスはクラスの状況、講義の進行状況によって変更することがありますので、あらかじめご理解下さい。</p>					

科目番号	科目名	バイオメカニクス特論			担当教員： 玉城 将
	科目名 (英語)	Advanced Course of Biomechanics			s.tamaki@meio-u.ac.jp 0980-51-1522
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後	5	人 206	
1. 授業の概要					
<p>本授業では動きを力学的に定量化することの意義と方法について実践的を通して学ぶ。スポーツ選手の卓越した技術を説明する力学的メカニズム、運動傷害を引き起こす動作要因など、身体運動を力学的に分析することで初めて明らかになる有用な事実は多い。バイオメカニクスは、そのような動きの力学的な分析を扱う学問である。本授業では演習を通してバイオメカニクスの分析手法の習得を目指すと同時に、運動指導におけるバイオメカニクスの意義を理解する。</p>					
2. 到達目標					
<p>(1) ヒトの身体動作をバイオメカニクスの分析できる (2) バイオメカニクスの意義を説明できる</p>					
3. 授業の計画と内容					
<p>第 1 週 バイオメカニクスとは 第 2 週 モーションキャプチャシステムの使い方 第 3 週 キネマティクスのパラメータを用いた動作の数値化 第 4 週 垂直跳のキネマティクスの動作分析① 動作の計測 第 5 週 垂直跳のキネマティクスの動作分析② 動作の分析 第 6 週 歩行のキネマティクスの動作分析① 動作の計測 第 7 週 歩行のキネマティクスの動作分析② 動作の分析 第 8 週 フォースプレートの使い方 第 9 週 垂直跳における地面反力の分析 第 10 週 モーションキャプチャシステムとフォースプレートの同期方法 第 11 週 垂直跳のキネティクスの動作分析① 動作の計測 第 12 週 垂直跳のキネティクスの動作分析② 動作の分析 (上肢の関節トルク算出) 第 13 週 垂直跳のキネティクスの動作分析③ 動作の分析 (下肢の関節トルク算出) 第 14 週 垂直跳のキネティクスの動作分析④ 動作の分析 (上肢と下肢の関連) 第 15 週 まとめ</p>					
4. テキスト					
授業時に、プリントを配布する					
5. 準備学習					
実験データの分析は授業外で行う。					
6. 成績評価の方法					
<p>1) 平常点 (グループワーク、演習への取り組み状況) : 20 点 2) レポート : 80 点 (全 4 回求め、1 回最大 20 点で採点)</p>					
7. 履修の条件					
<ul style="list-style-type: none"> 本講義は以下に示す数学および物理の知識を理解していることが求められる。受講前に十分に復習しておくこと。 高校数学：三角関数 (sin、cos、tan)、相関係数 (意味、散布図)、2 点間の距離、ベクトル (成分、合成、分解) 高校物理：速度、加速度、角速度、角加速度 本講義は Excel を用いた分析を多用する。以下のキーワードを手がかりに、Excel の使い方を事前に学習しておくこと。 四則演算、べき乗の計算、平方根の演算、セル参照、数式のコピー、相対参照と絶対参照、折れ線グラフ、散布図 関数 (AVERAGE、SUM、STDEV.S、MAX、MIN、MEDIAN、QUARTILE.INC、DEGREES 関数、ASIN、ACOS、ATAN) 					
8. その他					
<ul style="list-style-type: none"> 配布資料や実験データは Google ドライブで共有する シラバスは進行状況等により変更することがある 					